



「はちみつ」は **1歳** を過ぎてから与えましょう



都内で、「はちみつ」の摂取が原因と推定される乳児ボツリヌス症による死亡事例がありました。死亡した生後5か月の乳児は、離乳食として市販のジュースに「はちみつ」を混ぜたものを与えられていました。検査の結果、乳児の便と自宅で保管していた「はちみつ」からボツリヌス菌が検出されました。

赤ちゃんのお母さん・お父さんやお世話をする方へ



1

乳児ボツリヌス症予防のため、1歳未満の赤ちゃんに「はちみつ」を与えるのはやめましょう。



2

ボツリヌス菌は熱に強いので、通常の加熱では殺菌できません。1歳未満の赤ちゃんに「はちみつ」を使った料理や「はちみつ」入りの飲料・お菓子などの食品は与えないようにしましょう。



市販食品は、必ず表示を確認し、どんな成分が入っているか赤ちゃんに与える前にチェックしましょう。外食する際は、お店の人に聞くなどしましょう。



【乳児ボツリヌス症とは】

ボツリヌス菌は、土壌中などに広く存在している細菌です。

まだ腸内環境が整っていない赤ちゃんでは、食品などを介してボツリヌス菌が口から体内に入ると、菌が腸内で増えて毒素を出すため、便秘、ほ乳力の低下、元気の消失、泣き声の変化、首のすわりが悪くなる、といった症状を起こすことがあります。ほとんどの場合、適切な治療により治癒しますが、まれに亡くなることもあります。

なお、1歳以上になれば「はちみつ」を摂取しても、発症することはありません。

【この記事に関するお問合せ】生活環境安全課 食品衛生担当

このマークは、目の不自由な方などのための「音声コード」で、コードの位置を示すために切り込みを入れています。専門の読み上げ装置で読み取ると、記事内容を音声で聞くことができます。

